

幹夫、京太も、おもしろそうに、自分たちももらえるものねえかと探しとおる。

まあ、それはほっといて、僕は自分の事で、一苦勞。

大変、本が多くなり、部屋の中の、本の置き場で、頭を痛める。少し、休んで、「本棚でも作らにや、本置くところが無いなあ。」と思案。それで、いすに座り、少し、どの辺に作るか思慮を巡らす。結局、天井の壁の辺に長く一本作る事にした。

下の物置きから板を出し、母ちゃんまだ寝てるので、静かに、のこぎり、きり、釘、かなづちを出して、大工さん気取りで作ります。

長い釘がないので、自転車に乗って、買いに行く。釘代、五十円。

おばあちゃんに、その間に、板を洗ってもらった。

二時からめし。

その後、昼寝で、テレビ。五時に夕食で、寝ちまう。

夜、目が覚めて、この間書いたラブレターを取り出し読んだ。どうも、くどくて気持ちが伝わらない。

衝動的にペンを取り、寝ながら、また、ラブレターを書き直した。それを、制服のうちポケットに入れた。

くどくて気持ちが伝わらない